

# 『博士ちゃん』に想う事

其の参

「学校では先ず教えない特定分野に特段の関心を持ち且つ社会の専門家と対峙するだけの卓越した能力を發揮する」子供（小学校中学年児童〜高等学校生徒）達を紹介する多様性番組『博士ちゃん』（『テレビ朝日』…以下、テレ朝）。を彼等と同様の「？」境遇を抱えて昭和に生まれ育ったが故に自身の能力を發揮し得なかつた脳障害（非知的障害）者の視点で論ずる、其の二回目。お笑い芸人二人組が主司会と在って「芸能」「自然科学」や「歴史」の話が多い番組だが、七月一日放送分（一月三日放送の小学六年（当時）女子一家の「エジプト訪問記」に未公開分を加えての二時間二分枠）迄の間の略真ん中を利用して「と言いたい所だが今回も、

思いの文章化に手間隙掛かり、放送日近くに迄擦れ込んだ「まった」の今回は敢えて、経済との関連を中心に論ずるを試みたい。

◇

四月から六月迄の間に放送された『博士ちゃん』で取り扱った「経済関連」の話題は以下の通り（四月前半と六月後半は新作の放送無し）。

五月二〇日  
中学二年男子「味噌」  
五月二七日  
（「出演児二〇〇人超え記念」として一五人を抜粋紹介。ゲストは現職の宇宙飛行士並びに若手女優（二二時台放送のドラマの宣伝「↑「親御さんに向けてのお知らせ」と断つて言うべき！」の為））  
中学二年男子「架空の店舗設

計」／高校二年男子「照明効果」／中学一年女子「宇宙食」  
／大学一年（初出演時は高校生）女子「乳児車」  
六月一〇日  
（四人が出演。何れも三者択一式の「目利き問答」）  
中学一年男子「魚捌き」／小学五年男子「宝石」／高校二年女子「和服（着物）」  
――筆者は此の中で特に、「味噌」の男子と「宇宙食」の女子とを注目し乍ら観た。共に「食」と云う、人の生存に正に必須な分野に取り組んでるからだ。家業としての継承が約束されてる中、小六の頃に自作の味噌を六五〇食、造っては催事の場で売り切った福島県在住の中学二年男子は、自身の希望で家族と

共に愛知県内の大豆味噌三業者を訪ねる中、三件目で地元の小作味噌料理を伝授され早速実践・披露した。

小学校時代から地元の食品会社と提携し一〇〇回以上も宇宙食の試作と失格（『宇宙航空研究開発機構（ジャクサ JAXA）』の基準に抛ると、宇宙食の審査は「六点以上」を以て合格としている）を繰り返して中一女子は、今回の収録に合わせ数人の大学生や社会人と一緒に「蜜柑ゼリー」を試作、現職の宇宙飛行士に食べて貰い「五・七点。凝固剤入れ過ぎ」旨の失格判定を受けた。

前者男子には「良し、其の調子で。但、量産に走ったら終わらだ（必ず、大手に潰され、破綻するだけ）。希少価値を高め、

先天性脳障害（高機能自閉症＝非知的障害）者の眼から観たテレビ番組

五〇年弱遅れの「しくじり博士ちゃん」

佳羅春男

一九六三年（昭和三八年）三月出生

其を積み重ねて伸ばして行きなさい。そうして日本国内で足場を固めた上で、出来れば更に、

複数の国々に自ら足を運んで、各国の人々と会話する中で、彼等の生活習慣等を尊重しつつ、彼等の味覚に合った味噌を各々自作し、売り捌いてみなさい、後者女子には「めげずに、六点以上を勝ち取る迄、宇宙食の試作を続けなさい。合格を積み重ね、安定した状態で日本人向けに宇宙食を供給し続けられたなら、今度は、複数の国々に自ら足を運んで、各国の宇宙飛行士や宇宙開発関係者達と会話する中で、彼等の生活習慣等を尊重しつつ、各々の味覚に合った宇宙食を各々自作し、合格を勝ち取り続けてみなさい」——筆者としては斯く、二人各々に声を掛けたい。

◇

今回は、「複数の国々に…」と、将来の海外進出を「博士ちゃん」

「ちゃん」達に望む文言を敢えて記してみた。

多額（国内総額一兆円台！）の企業内部留保と其故の（「と言って良い」低賃金、其の一方では度重なる値上げ、等々、…総じて内向きで低迷気味な感を否めぬ近年の日本経済。「高度な物（新電池や半導体、…等）造り」を通して巻き返しを図る動きが政府主導で興されてる一方、中学及び高校の生徒向けに「起業教育」が私立学校を含む一部民間法人で試みられてはいる。但、主な対象と成るのは「普通の（＝平均的な知能（指数八五〇—一〇〇）を持つ）子」達だ。——其の「普通の子」達を基準に行われる公教育。今の日本の其を通して「広く世界で能力を発揮する人材」が殆ど輩出出来てない、と云う事も亦現状として在る。

そう成ると、「普通の子」とは言い難い（？）彼等「博士ちゃん」達「と言うと語弊が在る

うが、特定分野で卓越した能力を発揮する一方で意思疎通に關わる障害を抱えてる事例は従前から能く聞く話（筆者が正にそ

うだ）。彼等も恐らく、少なくとも地上波の放送では決して語られまい（↑同番組最大の（？）禁忌）が、発達障害（「高機能自閉症」（↑筆者が抱える）や「アスペルガー症候群」等、知的障害を伴わないもの）か「ギフテッド（英和辞書※に拠ると「優れた才能の在る」（「天分等）を与えられた」と在るが、文部科学省は「特定分野に特異な才能の在る児童生徒」と称してる（↑「神教的な響きを持つ言葉と解釈した上で敢えて其を嫌い、多神教（神道）の国に相応しい呼び方を編み出した？」。強いて略すと「特異才能児」か。「遅い」「執拗に拘る」「ぱにくる」等の症状が診られぬ一方、人並みより高い知能（指数一三〇以上）を持つが故に平均的知能の子達とは殆ど話が合わず、結果的に人間関係で悩みを抱える）」の何れか、だろうね。其とも…」が先

ずは日本国内で実績を積み上げて足場を固めた上で更に、諸外国（特に基督教世界）個人を尊重し、職業上の能力以外での先天的な違い（＝多様性）にも寛容

—の国々にも自ら足を運んで、其の国の人々と会話する中で、彼等の生活習慣等を尊重しつつ、自ら資産又は役務を創造しそして売る事。——そうした「博士ちゃん」達の働きを実社会の企業（家）や専門家が持続的に活用し後援（↑「協賛」や「支援」に停まらず）し乍ら彼等を育成していく事こそが、今は低迷気味の日本経済をV字型に描くが如く活性化へ導く恰好の動機と成り得る——と筆者には思えて成らぬのだ。

番組『博士ちゃん』を通したテレ朝の取り組みには、筆者としても感謝して止まぬ。但、…放送事業者もNHK以外は「会社（＝営利の追求を第一の目的とする法人）」だ。テレ朝も最大名は『株

式会社 テレビ朝日ホールディングス』（二〇一四年（平成二六年）以降、日本の民間放送鍵各社は全て、「認定放送持株会社」の本体の下に複数の事業会社、と云う形態と成ってる）。若し同社が破綻に至り得るだけの経営危機に直面したら、状況に因つては、「博士ちゃん」達も見捨てられて折角の卓越した能力も埋没し世間「更に世界」に還元されなくなる——と云う可能性も否定は出来ない。

人材育成には長い目で見る取り組みが必要だ。但、其を会社の枠内で行うには限界が在り過ぎる、と言わざるを得まい。が故に、「博士ちゃん」達の持続的な活躍が約束される為にも、非営利の法人（一般財団法人又は一般社団法人）を介して長い目で見る取り組み——物的そして精神的な助言や援助を通しての「後援」——が必須と成る——と筆者は断言したい。

既存の非営利法人に協力を求

めるか、或いは、全く新たな非営利法人を立ち上げるか。何れにしても、三年半余りの放送で扱えた分だけで二〇〇人を超えた「博士ちゃん」達を各々、世界でも活躍出来るだけの人材に育て上げ、且つ彼等を束ねての強固な基礎人脈の形成を図る、には困難が伴うだろうが、心在る有識者の方々（中には是非、医療（特に精神科と脳神経内科）と社会福祉（特に先天性脳障害関連）

・双方の関係者もお忘れ無く。

「博士ちゃん」（＝又の名を「爪を隠せぬ子鷹」？）達は、日本人仲間在つては「皆と違う」旨の暗黙の理由に因り「苛め」の標的にされ易い（↑「出る杭は打たれる」から）の積極的な動きと結束に、取り敢えずは期待したい。——其の際、彼等に今一つ、必要不可欠な事は、エジプト・アラブ共和国を訪れた小学六年（当時）女子に対する同国政府お抱えの考古学者氏の応対の例

（一月三日放送分から。未公開分三件を加えた再放送（七月一日）は『ギヤラクシー賞』受賞祝いの為。同賞の審査に当たったベテラン放送従事者有志は此の場面に感銘を受けて評価を高め賞を与えたのか？…余談）に倣う迄も無く、対等に渡り合う（子供からの問いに「そだねー」等と同調を繕うのでは無く、「其は違う」旨も在りの言葉で話し返す）姿勢だ。



さて、何れも経済関連では無いが、「昭和の特殊撮影（特撮）」の高校二年（？）男子の話（四月二二日放送）と「浮世絵・葛飾北斎」の中学二年男子の話（五月二三日放送）は各々、「博士ちゃん」が抱える「影」の側面を改めて垣間見せた感が在る。——共に、「学校の同級生とは話が合わない」旨の声がかかれたから（後者では「浮世絵趣味の六〇歳代が話し相手」旨も）。

全くの余談乍ら、前者に関して付け加えると、「遠い遠い未

来の話……」との語りで締め括られた『ウルトラセブン・狙われた街』（一九六七年（昭和四二）一月発表）の脚本を担った「金城哲夫」（一九三八年生、一九七六年事故死）は、『円谷プロダクション』創立（一九六三年）時の企画文芸部長で、同社が設けた、テレビ放送の企画を担う人材の育成を目的とする賞（二〇一六年（平成二八）創設）に名を残してる。亦、彼と共に『…セブン』の脚本を担った「市川森一」（一九四二—二〇一一）の妻（女優。存命中に付き此処では匿名）は一時期、テレビ朝の情報番組『モーニングショー』の副司会を務めた事が在る（一九八〇—一九八六）。——今回の「特撮」の話を通して、戦争世代（一九二七年（昭和二）四月一日迄に出生）や疎開世代（一九二七年四月二日から一九四三年七月一日迄の間に出生）の映画人や放送人は「例え子供向けでも、作るからには大人の鑑賞に耐え得るもの

を」旨の気概・気骨に溢れる中  
で作品（番組）を作ったのか  
—との感慨に改めて浸ったのは、  
筆者だけでは無かったろう。



其にしても、「青少年に観て  
貰いたい番組」を掲げるならば、  
甲子園球場の例（本塁後方から両  
選手団控席に掛けるの塀、普段は酒類  
を含む広告が、高校野球開催時には酒  
類を含まない広告に差し替えられる）  
に倣って（？）『本麒麟』を『生  
茶』に、『金麦』を『伊右衛門』  
に、各々差し替えるだけの配慮  
も番組提供元には欲しいが…。

■本書の作成に際しては、『テレビ朝  
日』ホームページと『ウイキペディ  
ア・フリー百科事典』を主に参照致  
しました。

【其の他の参照文献（問網経由）】  
※『プログレッシブ英和中辞典』（小  
学館）

佳羅放送戯評  
『博士ちゃん』に想う事  
其の参

2023年（令和5年）6月29日発行  
7月20日加筆修正済

発行者 佳羅研究所  
<http://www.kar2007el.ecweb.jp/>  
お問い合わせ先（電子メール）  
s9p-14@kar2007el.ecweb.jp